



第1回伝統医学グローバルサミットに参加して その1

修琴堂大塚医院 渡辺賢治

今年の夏はとりわけ暑いと感じた人が多かったのではないだろうか。米国の航空宇宙局(NASA)によれば、2023年7月は、これまで記録してきた7月の気温よりも0・24℃高く、1951年から1980年の7月の平均気温よりも1・18℃高かったといえます。ハワイ・マウイ島はじめ、世界各地で山火事や洪水が相次ぎ多くの貴重な生命が奪われています。地球も悲鳴を上げているのを身近に実感するようになりました。8月にインドで開催された第1回伝統医学グローバルサミットでは、こうした地球環境も含めた議論が行われたのでここに報告します。

会議の背景

伝統医学とは、本来それぞれの地域で発展した、長い歴史を有する伝統的な医学の総称ですが、1990年頃からグローバル化が進み、壮大な歴史に裏付けられた人類の叡智を世界で共有しようという潮流になりました。これは西洋医学が臓器・細胞・遺伝子、とどんどん細分化され、ともすれば人間そのものの存在が軽視されるような行き過ぎに対するアンチテーゼとして、伝統医療の見直しが進んだともいえます。事実、先進国ほど伝統医学に対する関心の高まりを見せているのです。

WHOの国際疾病分類という、世界の保健データ収集のための共通基盤に、初めて伝統医学が取り入れられたのが2019年のこと。2022年に発効され、既に多くの国で使われています。現在国際疾病分類に入っている

域で発展した、長い歴史を有する伝統的な医学の総称ですが、1990年頃からグローバル化が進み、壮大な歴史に裏付けられた人類の叡智を世界で共有しようという潮流になりました。これは西洋医学が臓器・細胞・遺伝子、とどんどん細分化され、ともすれば人間そのものの存在が軽視されるような行き過ぎに対するアンチテーゼとして、伝統医療の見直しが進んだともいえます。事実、先進国ほど伝統医学に対する関心の高まりを見せているのです。

WHOの国際疾病分類という、世界の保健データ収集のための共通基盤に、初めて伝統医学が取り入れられたのが2019年のこと。2022年に発効され、既に多くの国で使われています。現在国際疾病分類に入っている

伝統医学は、日本の漢方、韓国の韓医学、中国の中医学などの、古代中国に端を発する医学です。そして、現在開発中の国際疾病分類は、インドを中心とする伝統医学である、アーユルヴェーダ、ユナニ、シツダです。

こうした背景からインド政府は250億ドルを投じて、グジャラト州のジャムナガルにWHOグローバル伝統医学センターを設立しました。

モディ首相が国連総会において国際ヨガの日の制定を呼びかけたのが、2014年9月ですが、その年の12月には全会一致で承認されました。モディ首相が国際ヨガの日を提案した際の演説では、「ヨガは、古代以来のインドの伝統が生んだ貴重な贈り物である。既に5000年の伝統がある。ヨガは身体と精神、思考と行動、抑制と実践の統合を実現させ、また、人と自然の調和、健康と福祉へのホリスティックなアプローチを実現する。ヨガは単なるエクササイズではなく、自身の中に統合された感覚を見いだすものである。私たちのライフスタイルを変え、意識を高めることによって、幸福への助けとなる。国際ヨガの日の採択に向けて、ともに働こう」と述べていま

国くらい旅していますが、インドに行くのは初めてです。2008年にWHOの会議でインドのデリーに行く予定でしたが、この時は他の都合とバッティングして行けませんでした。行ってきた厚労省職員や専門家の多くが下痢をした、と聞いていたので、今回も少々気後れしていたのですが、WHOから、重要な会議だから絶対に来るようにと言われて、行くことを決心しました。

航空券の手配はWHOのチュニジアセンターですることになっていたのですが、なかなか希望の日程で取ってくれません。さらに台風7号が東京を直撃するという予報で、日程調整をいろいろとしていたら、結局航空券が届いたのが2日前です。届かなければ行か

ない口実になると思っていましたが、ついに届いてしまったという感じでした。ハノイ経由で、インドのアーメダバードの空港まで、心配していた台風7号は東京をそれたのですが、ちょうどお盆休みで、空港はごった返していました。

ハノイ行きの飛行機は満席で、グループもいましたが、一人旅の若者も多く、ベトナムは安全で人気なのですね。一方こちらは荷物を預けないで済むように、手荷物1個でスーツ姿、しかも飛行機の中で仕事をしたい、なんだか旅行気分を台無しにしているようで、肩身の狭い思いでした。

ハノイで6時間のトランジットがあり、夜11時くらいにアーメダバード

ド空港に到着しました。飛行機を降りたところに迎えが来ていて、G20、G20と何度も言うのです。ガンジーナガルでG20サミットが開催されていることはニュースで知っていましたが、この伝統医学サミットはG20保健大臣会合の一環であることを初めて認識しました。空港内はG20の歓迎の看板がそこら中に見られ、長旅で疲れていたのですが、G20のお客様歓迎のダンスがあり、その輪の中に放り込まれ、グジャラト州の民族舞踊と一緒に踊りました。

この伝統医学会議が何故重要かは、まだこの時点でははっきり分かっています。かつては次号以降に書かせていただきます。

第1回WHO 伝統医療グローバルサミット

このような背景で、WHOグローバル伝統医学センターが設立されジャムナガルと同じグジャラト州の州都ガンジーナガルで、第1回WHO伝統医療グローバルサミットが2023年8月17・18日に開催されました。名前の由来はグジャラト州出身のマハトマ・ガンジーにちなんで名づけられています。ナガルは「町」という意味なので、「ガンジーの町」となります。

今までいろいろな会議で世界40カ



わたなべ けんじ 渡辺賢治

慶應義塾大学医学部卒業。慶應義塾大学医学部内科、東海大学医学部免疫学教室に国内留学後、米国スタンフォード大学遺伝学教室に留学。帰国後北里研究所(現北里大学)東洋医学総合研究所、慶應義塾大学医学部漢方医学センター長、慶應義塾大学環境情報学部教授を経て、1931年に開設された漢方専門医院、修琴堂大塚医院院長に就任。横浜薬科大学学長補佐・特別招聘教授、奈良県顧問、神奈川県顧問、漢方産業化推進研究会代表理事、日本臨床漢方医会副理事長、WHO医学科学諮問委員、WHO伝統医学分類委員会共同議長等を兼ねる。1900年以来、西洋医学のみだった国際疾病分類の、第11改訂(2019年)に、伝統医療が初めて取り入れられたが、2005年からプロジェクトの共同議長として長年尽力。主な著書に『漢方医学 同病異治の哲学』(講談社学術文庫)、『未病図鑑』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)、『漢方で感染症からカラダを守る』(ブックマン社)など。